

森林官による地域活動について

—小田を任され、小田に意気る—

四国森林管理局 愛媛森林管理署
小田第一森林事務所 森林官 野村 祐樹
森林整備部 資源活用課
収穫係長 水田 英司
(元 愛媛森林管理署)

1 課題を取り上げた背景

国有林野事業の歴史の中で、中山間地域の住民と営林署（現森林管理署）の祖先機関である担当区事務所（現森林事務所）で勤務する職員（現森林官）は、同一地域で生活する中、公私問わず密接な関係を築き上げてきました。



現在は、地域住民とのパイプ役だった愛媛県内子町小田地区の集落地元出身の基幹作業職員（現森林技術員）の減少や森林事務所・官舎の町部への移設、森林官の単身赴任の増加や2～3年単位での異動等で地域との繋がりが徐々に希薄となる中、一方で、市町村合併により広域化した管轄区域において、地元自治体をはじめ、関係機関（消防署・警察署・病院・学校等）と密接な関係を築く必要があります。

そこで、私たちは、職場の先輩やOB職員、地域で昔から国有林と関係の深かった年配者等に話を聞き、継続すべきは継続し、新たに取り入れるべきは取り入れ、少しでも地域の中での存在価値を再構築できたらと考えました。

そのために、森林事務所がある愛媛県喜多郡内子町小田地区を中心とした地域活動に参加する中で、地域住民と交流・会話を重ね、現在、何を国有林に求められていて、何が実行可能なのかを探ることとしました。

2 取組の経過

- ① 職場の先輩やOB職員、昔国有林と関係のあった方に、当時の職員と

地域の方々との関係性等を聞いてみました。

- ② 小田地区の地域行事（燈籠まつり、秋季大祭（獅子舞）、スポーツ大会等）へ積極的に参加しました。
- ③ 地元自治体や消防署、駐在所等の関係機関と、災害時の対応や遭難者捜索活動等について意思統一を図り、連携を強化しました。
- ④ 多くの人が四季を通じ、小田深山を訪れていることに気づき、小田深山の魅力を広く伝えるべきと考えました。

3 実行結果

- ① 昔の小田深山国有林の現状や地域の方々との関わりを詳しく知ることができました。
- ② 地区の行事に参加し、地域の方との交流を通じて、国有林に対する期待や要望を聞くことができました。
- ③ 今まで実施してきたことに加え、防災ヘリやドクターヘリの要請基準等、新しい考え方で、緊急時対策の確立へ向けて進めることができました。
- ④ 内子町主催のイベントに参加し、小田深山の魅力を内子町内外の子どもたちやその親に伝えることができました。



消防署との情報交換

4 考察

今回の取組を通じて、改めて国有林が地域と密接な繋がりを持ち、公益的機能の発揮や観光の面、雇用の場の提供等に寄与してきたことを学びました。その大切な役割は、地元住民の支え（防災協力含む）の元に構築され、引き継いでいかなければならないことも多数あると気づかされました。我々は異動を伴いますが、在任期間、地域に溶け込み、この地区で仕事・子育てができることは喜びだと感じています。次世代に繋がる山作りにも、伝統的に伝えられたものが必要であり、それを新しい視点で捕らえ、新しいやり方を試し、根付かせるのも我々の使命であると感じました。今回、感じたことや、今後やりたいことを広く広報し、「あってよかった国有林」と言われるよう取り組んでいきます。